

民間団体による避難所運営の 事例から考える

2016年熊本地震 2020年豪雨災害時の熊本YMCA事例

**「災害は、日常の社会課題が浮き彫りになる。避難所運営を通じて
の地域コミュニティの再生、日常のコミュニティ形成の力を生かす」**

2023年8月2日(水)

資料提供 熊本YMCA(丸目) 発題 日本YMCA同盟 総主事 田口 努

2016年 熊本地震
益城町総合体育館避難所

避難所 初期 本震後



避難所運営における最大の目標

避難所内で
災害関連死を
絶対に出不さない！

避難所内 要支援者

- 視覚障がい者
- 身体障がい者
- 外国籍の人
- 子ども
- 妊産婦
- 母子
- 高齢者
- 精神障がい者
- 知的障がい者
- 聴覚障がい者
- アルコール中毒
など

「災害は、日常の社会課題が浮き彫りになる。2000名の避難民(住民のコミュニティ)が突如出現、その一人一人の命と人権が守られ、自立、再生の力を育む場、日常と深くつながっている」

避難所運営 1日2回の全体ミーティング

多様な団体との実践力のある柔軟な多種連携コーディネート(コミュニティワーク)



個別対応 マシコム会議の様子

マシキコミュニティ会議の略、長期化に伴い要支援者個別対応、ケア



災害医療保健従事者、専門職との連携について

- 情報共有、避難所ミーティングへの参加
- 医療ソーシャルワーカーの存在
- 保健衛生の指導

- 緊急期以降の避難者、特に要支援者対応
被災地の医療機関、医療従事者との連携
- 地域コミュニティに関わる専門職・民間団体による災害派遣団体との協働、連携、柔軟なコーディネーション力、ファシリテーター力

チャイルドケア 子どもたちと保護者のケア

こどもが、元気になると家族、避難所全体が明るくなり、積極的になる



女性、母子への配慮

避難所でも子育て支援重要、物資、トイレ、衛生面、更衣等々、女性、母子への配慮



交流の場を提供 カフェなど

避難所のコミュニティカフェ、交流、居場所、心の健康づくりにつながる



介助が必要な方への支援



ペット連れの家族への配慮



2020年 豪雨災害
熊本県球磨村

旧多良木高校避難所



コロナ禍での避難所運営 目標

- 災害関連死をださない
- 新型コロナウイルス感染症をださない
- 避難所生活を楽しむ

避難所運営 組織図

2020年10月現在

多良木高校 避難所運営組織図	
多良木高校住所	〒868-0501 熊本県球磨郡多良木町多良木212番地

緊急時

救急車 119

<table border="1"> <tr> <th>近隣救急病院</th> <td></td> <th>避難所 役場リーダー</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>球磨郡公立多良木病院</td> <td>球磨村復興本部避難者支援班</td> <td>球磨村役場</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>0966-42-2560</td> <td>0966-32-1115</td> <td>村役場窓口交代2名体制</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>球磨地域振興局</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0966-24-4112</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>施設管理者</th> <td></td> <th>避難所運営リーダー</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>球磨支援学校</td> <td>人吉保健所</td> <td>YMCA 丸目</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0966-22-3107</td> <td>PBV 1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	近隣救急病院		避難所 役場リーダー			球磨郡公立多良木病院	球磨村復興本部避難者支援班	球磨村役場			0966-42-2560	0966-32-1115	村役場窓口交代2名体制				球磨地域振興局					0966-24-4112				施設管理者		避難所運営リーダー			球磨支援学校	人吉保健所	YMCA 丸目				0966-22-3107	PBV 1			<table border="1"> <tr> <th>熊本YMCA災害対策本部</th> <td></td> </tr> <tr> <td>コーディネーター</td> <td>1</td> </tr> <tr> <th>ピースボート災害支援センター</th> <td></td> </tr> <tr> <td>コーディネーター</td> <td>1</td> </tr> </table>	熊本YMCA災害対策本部		コーディネーター	1	ピースボート災害支援センター		コーディネーター	1
近隣救急病院		避難所 役場リーダー																																															
球磨郡公立多良木病院	球磨村復興本部避難者支援班	球磨村役場																																															
0966-42-2560	0966-32-1115	村役場窓口交代2名体制																																															
	球磨地域振興局																																																
	0966-24-4112																																																
施設管理者		避難所運営リーダー																																															
球磨支援学校	人吉保健所	YMCA 丸目																																															
	0966-22-3107	PBV 1																																															
熊本YMCA災害対策本部																																																	
コーディネーター	1																																																
ピースボート災害支援センター																																																	
コーディネーター	1																																																

勤務体制	チームリーダー(避難者対応)	受付	食事	物資	環境・衛生・整備	その他 ボランティア調整/受入
早出 6:00-15:00	PBV 1	PBV 1	PBV 2	PBV 1	PBV 2	YMCA 丸目
中出 8:00-17:00	賛育会 1		YMCA 1		YMCA1-2	PBV 1
遅出 14:00-23:00	PBV 1	PBV 1	PBV 1	PBV 1	PBV2	
	賛育会 1		YMCA1		YMCA1	
夜間 22:30-7:30	①緊急対応YMCA、PBV ②警備会社(警備&運営)	受付、夜間対応警備等 2名配置(人員交代制) 警備員携帯	※受取り			

避難所内部の様子 比較

密をさけた配置



益城町総合体育館 連結型



旧多良木高校第1体育館 世帯分離型

コロナ禍での避難所運営 工夫例

受付周りの整理整頓、検温等受付方法の簡素化



コロナ禍での避難所運営 工夫例 受付周辺、靴の整理整頓



コロナ禍での避難所運営 工夫例 健康体操やレクリエーション



コロナ禍での避難所運営 工夫例 子どもケア



コロナ禍での避難所運営 工夫例

オンラインライブ



コロナ禍での避難所運営 工夫例 炊き出し



避難所運営を民間で担う意義

- ・ 災害支援の経験が活かされ、避難生活のスムーズな改善につながる。
- ・ 住民と行政職員の間に入れる第3者という立場で運営にあたる事ができる。
- ・ 行政職員の避難所運営の負担軽減と、本来の行政サービスの早期開始や復興にあたる事ができる。

まとめ

- ・避難所は、避難者の**命**を守る場
- ・避難所（特に長期）は**生活**の場
- ・医療保健専門家をはじめ、災害支援団体
行政、社会福祉協議会など**多種連携**が重要

非常時だけでなく、常時からのネットワーク、できれば顔の見える関係づくりが大切!!

- ・地域コミュニティに関わる民間団体による災害団体、派遣団体との協働、連携、柔軟なコーディネーション力、ファシリテーター力
- 「災害は、日常の社会課題が浮き彫りになる。避難所運営を通じての地域コミュニティの再生、日常のコミュニティ形成の力を生かす」